

市長挨拶

平和首長会議の会長を務めております広島市長の松井でございます。

最初に、昨日から開催されているこの ICAN キャンペーンミーティングで挨拶させていただく機会を与えてくださった、ベアトリス・フィン ICAN 事務局長様はじめ関係者の皆様に深く感謝します。

今回、私は被爆地ヒロシマの市長として、「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」という被爆者の深い人道的信念に根差した切実な思いを伝えるために、ジュネーブにやってまいりました。

核兵器廃絶の実現には、核兵器を禁止する法的枠組みが不可欠であると同時に、それと併行して、相互不信と脅しで成り立つ「核抑止」に基づく安全保障体制を脱却し、同じ人類としての同胞意識に根差すより安定した平和の基礎を築く必要があります。

今回の公開作業部会は、各国政府の法的措置の議論がどこまで前進するかという極めて重要な会合となります。残念ながら今回も核保有国の出席は叶いませんでしたが、明日からの議論が、核保有国と非核保有国との対立構造の下での展開ではなく、双方が核兵器をこの世からなくすという目標を堅持し、それに向けてより具体的かつ現実的な前進を図るようにする必要があります。

ところで先の G7 広島外相会合において、広島を訪れたことにより、核兵器廃絶へのリーダーシップを発揮しようと決意を深めた為政者を目の当たりにしました。その一人が、核兵器国・米国のケリー国務長官です。彼は「核兵器のない世界を追求し、実現することが公職にあるすべての人々の義務である」と明言しました。為政者は、全世界的な核兵器禁止を決意した上で、核兵器の廃絶に向け、明確な方向性について合意する必要があると考える我々は、市民社会の立場から、そうした思いが現実の政策転換に結実するよう全力で後押ししなければなりません。そうすることが市民、そして全人類の利益に繋がると確信しています。

核兵器廃絶に向けて多くの団体や組織が様々な活動を行い、国家レベルにおいても様々なアプローチによる取組が行われています。重要なことは、お互いが尊重し合い、こうした多様な取組が相互補完的に連動し、核兵器のない平和な世界の実現という一つの目標に向かって協働していくことだと思います。ここにお集まりになった皆さんも、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を目指し、それぞれの立場で力を合わせて努力していこうではありませんか。

明日からの議論が、より建設的なものとなり、その成果として核兵器のない世界に向けた効果的な法的措置についての認識が共有されるように共に行動していきましょう。